

63th

延岡市美術展覧会

入賞・入選目録



グラフィックデザイン部門 特選
認知症者の記憶



洋画部門特選



書道部門
特選 高郵湖

会期:平成25年7月6日(土)~7月19日(金)【休館日:7月9日(火) 7月16日(火)】

会場:延岡総合文化センター展示室1・2【開館時間:AM9時~ PM5時】

主催:第63回延岡市美術展覧会実行委員会・延岡市・延岡市教育委員会・延岡市文化連盟

洋 画

特選	延岡市長賞	<small>クロギ ヒロシ</small> 黒木 日良志	<small>ジュコン(13-5)</small> 樹魂(13-5)	アクリル
準特選	延岡市教育委員長賞	<small>カイ ミサキ</small> 甲斐 未紗紀	きのう	油彩
準特選	延岡市文化連盟会長賞	<small>タナカ セツコ</small> 田中 節子	伊 祈	油彩
奨励賞	延岡市議会議長賞	<small>ヒロセ タカヨシ</small> 廣瀬 貴至	<small>ガシツフ(2)</small> 画室譜(Ⅱ)	油彩
奨励賞	延岡市教育長賞	<small>ヤマモト マオ</small> 山本 真央	キ 木	油彩
奨励賞	延岡市教育長賞	<small>スイツ タモツ</small> 水津 保	<small>オカノユウヒ(C)</small> 丘の夕陽(C)	油彩
奨励賞	旭化成(株)延岡支社長賞	<small>イトウ ナナミ</small> 伊藤 菜々美	<small>リュウドウ</small> 流動	油彩
奨励賞	延岡商工会議所窓頭賞	<small>ウエハラ ジュンコ</small> 上原 順子	あした	油彩
奨励賞	延岡市美術展覧会 実行委員長賞	<small>ナカハラ マサタカ</small> 中原 将貴	<small>ハタチ</small> 二十歳	油彩
奨励賞	延岡市美術展覧会 実行委員長賞	<small>ヤナギタ ヤスシ</small> 柳田 也寿志	<small>リュウセン</small> 流線	油彩
努力賞		<small>カシワマル ユキ</small> 柏丸 由樹	<small>ヨウコウ</small> 鴻溝	油彩
無鑑査		<small>ゴトウ ミツオ</small> 後藤 光雄	<small>レンサ</small> 連鎖	アクリル
無鑑査		<small>グドウ ヤスオ</small> 工藤 晏生	<small>シラカワスイゲン</small> 白川水源	アクリル
無鑑査		<small>ヤギ タカユキ</small> 八木 隆幸	<small>マルノウタ・13~2ヒ</small> まるの詩・13~2碑	油彩
無鑑査		クリストファー・トラウトマン	Two Houses: Illinois and Miyakongyo	木炭画



入 選



赤澤 隆	流木	油彩	佐藤 幸義	元気でいいね(2012・鏡山にて)	油彩
荒金 辰夫	別れの哀歌	油彩	JAMES HARRIS	DECOMPOSITION	油彩
Alan Pocaro	金沢の家で出会った	アクリル	志田 嘉嗣	国の重要文化財。門司港駅舎	油彩
池田 見一	温故知新	油彩	高橋 絵美里	普遍	水彩
磯貝 増夫	仏三尊像	油彩	田口 昭	貌	アクリル
井出 静恵	まなざし	油彩	竹内 秀夫	残照ふじ	油彩
井上 侑	廃	油彩	武田 昭三	森の小道	油彩
今村 光子	真名井の滝(高千穂)	油彩	立石 利宏	私の時間	ボールペン画
今吉 茜	彼女、思い出の中で。	油彩	中城 廣美	アザミの詩	油彩
岩崎 奈美子	牡丹	油彩	成合 英子	漁港の風	水彩
上山 晴久	センチメンタル・メモリ	油彩	野村 幸枝	わたしの散歩道	油彩
大庭 昌子	静寂	アクリル	畑田 禮子	春光	水彩
大山 久雄	テリトリー固守		広江 友久	南伊春景	油彩
金子 いつ子	遠い記憶	油彩	藤崎 みちこ	街	油彩
川崎 圭子	慰撫の春	油彩	松崎 亜美	流	油彩
工藤 俊英	ふるさとの清流は今も変わらず	水彩・パステル	松本 望	年月	油彩
久保 ケイ子	市街を臨む(城山)	油彩	宮崎 真衣	水深	アキーラ
黒木 光子	静閑Ⅱ	アクリル	森田 陽水	くろさき通り	油彩
神谷 友里	目に映らないもの	アクリル	八木 千穂子	庭園IX2013. 6	水彩
古小路 禮子	日だまり	水彩	陸丸 敦子	琉球物語	油彩
児玉 良子	白い壁	油彩			

日本画・水墨画・ちぎり絵等

特選	延岡市長賞	ハラ タツヨシ 原 辰 義	ミヤマ セイキ 深山の聖域	剪画
準特選	延岡市教育委員長賞	カイ ヨシコ 甲 斐 美子	カン 河畔	日本画
奨励賞	宮崎日日新聞社賞	サタ ミツオ 佐 多 光夫	サンガクカイインノジョリヨクニカンシヤ 山岳会員の助力に感謝	水墨画
努力賞		フクドメ キミコ 福 留 公子	はげいとう	ちぎり絵
無鑑査		オノ 小野 きよ子	セイカ 清華 トウゲンキョウミサキ 桃源郷岬	ちぎり絵

入 選

岩切 恵美子	薔薇のつどい	ちぎり絵	工 藤 晏 生	つ・ば・き	日本画
上 杉 陽 子	由布の秋	ちぎり絵	高 橋 綾 子	彩苑 春はそこまで	日本画
大 槻 スエ子	椿	ちぎり絵	富 山 千 世	ポインセチア	ちぎり絵
甲 斐 光 子	白い風	ちぎり絵	豊 田 ハルノ	夏	ちぎり絵
河 野 峰 子	見つけた春	ちぎり絵	古 川 友 江	夏の午後	切絵
工 藤 俊 英	ふるさと晩秋の観音滝	切絵	湯 地 イチイ	希望	ちぎり絵



彫刻・工芸

特選	延岡市長賞	マツシマ シズコ 松島 シズ子	メロン	パッチワーク
準特選	宮崎県知事賞	オオツカ シホ 大塚 志穂	マド 窓	染色
奨励賞	延岡市議会議長賞	ナガサト ジュンイチ 永里 順一	ウチュウノヒカリトカゲ 宇宙の光と影	陶芸
奨励賞	センコー(株) 延岡支店長賞	ウエムラ ヨウコ 上村 洋子	ギンガ 銀河	陶芸
奨励賞	延岡市美術展覧会 実行委員長賞	ハマダ スズコ 浜田 すず子	ワタシノスキナハナ 私のすきな花	パッチワーク
努力賞		クドウ ホナミ 工藤 ほなみ	ユメミルヒマワリ 夢見るひまわり	友禅染
無鑑査		シバ イクノリ 芝 行 則	カゼノイタズラ 風のいたずら	彫刻
無鑑査		ナカムラ ユウコ 中村 有子	キンサイロツカクチュウキ「ワアソビ・ユイ」 金彩六角柱器「和あそび・結」	陶芸
無鑑査		タケダ ヒロコ 武田 弘子	ウチュウソウヲキボウスル 宇宙葬を希望する	友禅染

入 選

浦崎 克記	黄昏	陶芸	田口 京子	すいせん	友禅染
岡田 恵子	花笑み	パッチワーク	霧居 君江	バラの想い	刺繍
甲斐 富士子	巢	陶芸	戸塚 貞子	花のスタンドグラス	刺繍
川崎 えつ子	乙女の夢	刺繍	成岡 コマ子	白樺通り	友禅染
黒木英勝(英心)	金銀箔窯変壺 月光	陶芸	煮 玉 守	闇に舞う忍者、虎斑木菟	彫刻
白瀬 叔子	京のまつり(着物)	友禅染	藤岡 郁子	スターダスト	パッチワーク
関 武 司	リング付壺	陶芸	松井 秀子	無邪樹	陶芸
田上 多津美	川岸のハマボウ	友禅染	武 藤 勝	緋襷水指	陶芸

グラフィックデザイン

特選	延岡市長賞	<small>ウメキ ミチヨ</small> 梅木 三千世	<small>ニンチショウシャノキオク</small> 認知症者の記憶
準特選	延岡市文化連盟会長賞	<small>ハラダ ユウミ</small> 原田 侑実	<small>ノオカノデントウ</small> 延岡の伝統
奨励賞	夕刊デイリー新聞社賞	<small>カワノ ヒデキ</small> 河野 英樹	<small>セナカゴシヤクソク</small> 背中ごしの約束
努力賞		<small>エノモト カオル</small> 柄本 薫	<small>ショウセツ「タダヨウ」</small> 小説「漂う」
無鑑査		<small>キダ マサコ</small> 木田 栞子	<small>タンジョウ</small> 誕生

入選

伊東 珠貴	シアワセの予感
永出 晴香	キエルイノチツナガルイノチ
戒井 まいこ	Dangerous ball
川崎 麻由	光風
齋藤 穂果	Life is shortened

榊野 芽唯	オムライス座
高橋 梓	私の美意識
松浦 有菜	恐竜島
山口 小羽美	ねこかぶり



書 道

特選	延岡市長賞	オカザキ アキコ 岡崎 亜希子	イッカ 一華	コウユウコ 高郵湖
準特選	宮崎県教育長賞	イトウ ユミコ 伊藤 由美子	シュンカ 春華	ふるさとの
準特選	延岡市教育委員長賞	カイ ヨウコ 甲斐 洋子	シュンショウ 春宵	駱賓王詩
奨励賞	延岡市医師会長賞	ウエスギ ミキ 上杉 実妃	シュウクワ 珠光	見ることも
奨励賞	ホテルメリーージュ延岡賞	ヤマウラ ヒデコ 山浦 秀子	ハクシュウ 柏秀	ウツスタケヨスokinチュウ 寫竹寄顧謹中
奨励賞	延岡市歯科医師会長賞	カイ ヨウコ 甲斐 かおり	コウフウ 香風	チヨウカコウボウシニオクル 長歌行贈房氏
奨励賞	延岡市美術展覧会実行委員長賞	ナカス アキコ 中須 昭子	ショウエン 昭苑	カンキョウシニシユ 韓畱 詩二首
奨励賞	延岡市美術展覧会実行委員長賞	マツオカ マサコ 松岡 昌子	—	シカイコウ 詩可以興
努力賞		オカダ マサコ 岡田 雅子	トウコウ 桃紅	ロクゲントクメイ 録元徳明
招待作家		イワシタ モトシ 岩 下 基	シュンライ 春来	ゴケンシ 呉儼詩
招待作家		オオツカ ヨウコ 大塚 洋子	ヨウフウ 葉風	セキエンクモヲハラウ 石燕弘雲
招待作家・無鑑査		ニシムラ カエコ 西村 香枝子	ワコウ 和香	ボシユンキヤクトソクケイ 暮春客塗即景
無鑑査		オザキ マサト 尾崎 真人	ホウシュウ 宝舟	ゼンゴ 禪語
無鑑査		ウエノ ハルオ 植野 春雄	セイホウ 聖鳳	イノチハシ 命の橋
無鑑査		ニシムラ トシヒロ 西村 寿洋	ゲンヨウ 玄洋	ショウケイ 小谿

入 選

青柳 有伸	有玄 東寺の竹	佐藤 茂樹	柏樹 天安寺疏圃堂
荒巻 孝行	大心 孝実動天・得魚忘筌	柴田 照子	空心 うす紅に～他一首
飯干 朗	千峰 江行	田口 智子	春汀 山里の
上杉 秀子	秀香 移家	谷口 隆幸	鶴城 韓翃詩
上野 和子	和風 いその神	丹波 のり恵	瑤翠 暁至湖上
植野 寿美	寿泉 博平県裏親に侍する時	年森 恵	祥雲 和王員外晴雪早朝
植野 洋一	桂石 李白詩	成田 優衣	大胆不敵
上原 幸子	香玉 郊游	難波 和恵	柏舟 鴛湖舟中翫月
上村 幸子	堅忍質直	原田 さゆり	桑峰 平壩城南村外一首
牛迫 孝子	春香 陸卿子詩	前田 佳代子	佳泉 雨後
緒方 和子	華苑 陶淵明詩	水俣 友花	有志竟成
尾方 巧	円苾 遇僊橋即事	宮越 恵子	恵風 負笈自新
岡村 公子	瑛翠 園居	山本 加代	涛香 十四夜待月
小田 千穂	紅扇 凧の	渡邊 康子	翔香 海口城晚望
城戸 裕行	鳳翔 發雙溪	渡辺 進	景舟 深渡駅
城戸 雅子	富翠 送沈仁甫歸省二章(其一、其二)		

写 真

特 選	延岡市長賞	前田 佳代子	雨あがりのファンタジー
準特選	延岡市教育委員長賞	永田 能夫	斜光
準特選	延岡市教育委員長賞	兒玉 由美子	命を繋ぐ
準特選	延岡市文化連盟会長賞	甲斐 民人	夏が来た
準特選	延岡市文化連盟会長賞	趙 亜 鳴	街角
奨励賞	延岡市教育長賞	小谷 節子	ダブル・ミラー
奨励賞	旭化成(株)延岡支社長賞	三輪 政弘	大地の造形
奨励賞	延岡市医師会長賞	川越 洋治	視線
奨励賞	延岡市西臼杵郡薬剤師会長賞	中野 孝一	太陽の祝福
奨励賞	延岡農業協同組合代表理事組合長賞	周防 政幸	渚のアート
奨励賞	ホテルメリージュ延岡賞	長友 道生	雨待ち蛙
奨励賞	清本鐵工(株)社長賞	千葉 雄一	高千穂朝景
奨励賞	延岡市美術展覧会実行委員長賞	春口 五男	夕暮れの老夫婦
奨励賞	延岡市美術展覧会実行委員長賞	兒玉 美智子	背くらべ
努力賞		佐藤 賢司	波を見る・看る
無鑑査		高橋 ミサ子	神楽宿
無鑑査		後藤 司郎	孤影





入 選

青 木 眞 雨情
有 馬 常 行 大群
飯 干 幸 一 山里のホテル
家 森 忠 雄 2人の浜
伊 東 英 一 face
井 上 政 範 天空の棚田
井 本 三 好 五ヶ瀬川の夕景
植 野 浩 人 最後の直線
歌 津 利 幸 優しさの中に
衛 藤 惇 夫 シャボン玉とんだ
大川内 かつ子 実りの秋
大 西 勅 滋 ひとときの語らい
大 山 久 雄 盆暮れ港まつり
岡 内 完 治 エンディング
緒 方 正 光 考えている休憩
岡 野 勉 めおと木の春
小 川 忠 之 夜桜ドライブ
押 方 徹 流雲の夜明け
乙 部 武 志 日の出に向って
甲 斐 直 志 お接待
甲 斐 正 之 清流の早乙女
甲 斐 靖 一 天空の通学路
笠 村 陽 一 生命線
川 崎 伴 平 ひよつとこ
川 路 澄 夫 漁船
河 野 康 哉 フェイス
川 端 章 春暮色
菊 池 貢 「静」
黒 木 君 代 あじさいの里

黒 木 男 ナイスキャッチ
木 場 富 次 豊穡の輪
小 松 清 春 愛の福墨
酒 井 義 満 パープルロード
坂 脇 昭 吉 狙い捕り
杉 野 孝 行 ennui
鈴 木 久 人 パッチンするぞ
鈴 木 り え 夜明けの海へ
雀ヶ野 秀 憲 子泣き相撲
谷 久 美 代 月光
玉 木 健 ゴールデンウイーク・ひととき
堤 浩 康 農作業
手 島 大 輔 岬の朝
浜 砂 昭 翁
林 喜 代 徳 燃ゆる雲海
松 井 信 介 和
松 尾 香 代 子 永久に眠る
松 田 菊 治 達磨出現
三 角 克 彦 サンデーサーファー
三 好 啓 司 はれの日
柳 田 実 男 放浪
矢 野 仁 祺 御対面
山 口 敏 夫 country life
山 崎 創 平 お母さんのシャンプー
山 田 悦 子 初夏の清流
横 山 喜 年 楽園の笑み
横 山 守 神秘的な夜明け
吉 岡 信 一 勝者と敗者
若 松 敏 男 森の中

審査講評

(審査員の氏名は、敬称を略させていただきました。)

【洋画部門】

熊本市（崇城大学教授、日展会員） 熊谷 有展

今回で63回を数える、歴史ある延岡市美術展の洋画部門の審査を初めて担当させていただきました、熊谷有展と申します。よろしくお願い致します。

それぞれの作品の持つ良いところを見落とすことのないように、一点一点しっかりとみて、審査にあたらせていただきました。

今回の洋画部門の応募作品数は104点。かなりの力作揃いであったと思います。その中で、特に印象深かった作品を挙げさせていただきますと、特選・黒木さんの「樹魂（‘13-5）」は、ダイナミックな構図の中にバルールの整った美しさがあり、完成度の高い秀作でした。

準特選・甲斐さんの「きのう」は、思いきりの良い表現で、色彩と良い画面構成と良い、アカデミックな中に若者らしい新しい表現を試みている力作でした。これからの成長が楽しみです。

同じく準特選・田中さんの「祈」は、2点出品中の1点でしたが、“うまさ”にはしる訳でなく、ご自分の“おもい”を画面いっぱいに表示した力作で、大きな母の前で夢を語る無邪気な子供、とても好感の持てる作品でした。

廣瀬さんの「画室譜（Ⅱ）」は、構成力がしっかりとしている美しい作品。山本さんの「木」は、思い切り良く絵の具を使い、色彩・構図ともに良く、伸び伸びと表現した力作。この2点におきましては、上位3点と並び、大賞候補として最後まで実に私を悩ませた作品でした。

入選者は、16歳～92歳と幅が広く、若い人の力作には目を見張るものがありました。また年齢を重ねられた方には、若い人にはない重厚な表現が素晴らしかったと思います。その他の作品も力作揃いで、入落を決めるのに非常に困りました。

今回惜しくも入選とならなかった作品の中にも、きらりと光るものが数多くありました。また次回のチャレンジを期待しております。

最後に、市展でありながら延岡市のみならず、全国から出品ができる展覧会は大変珍しく貴重です。これからも地元から、また全国から更に多くの素晴らしい作品が集まることを期待しております。その為、審査員・事務局・出品者の代表の方等が集まって、延岡市展委員会等を作ることも良いのではないのでしょうか。私も非力ではありますが、何かお手伝い出来ることがありましたら、すぐに飛んで参ります。

延岡市美展の今後のますますのご発展をご祈念させていただきます、審査講評とさせていただきます。

【日本画・水墨画・ちぎり絵等部門】

熊本市（画家、元熊本県美術協会会長） 姫野 豊

「何を、どう表すか」・・・その時私たちの脳裏には、これは素晴らしいと思う発想アイデアが浮かびます。でもこれは思いつきの域を出さないことが多いのです。

美術は一般的に造形美術といわれるように、色・形・材質・地はだ等による造形的な美の実現にあるので、ここでいう発想の段階で終わらせたくありません。そのため、日頃の技術の修練を基に造形要素の働きを通して、新鮮で個性的な表現を目指したいと思います。

今回の審査にあたっては、領域の違う作品群を一にした評価にするには大変難しいものがありますが、

あえて項目にしてあげると次のようになるでしょうか。

① 作品のもつ創造性と造形性をトータルなものにしているか。

- ・ ものの感じ方や考え方が明確に捉えられている。
- ・ 主題を鮮明にするため、表現に工夫がみられる。
- ・ 自己の意志を感じさせる表現である。

② 技術・技能の習熟の度合いはどうか。

特選「深山の聖域」は、建物の構造の重厚さを精緻な^{とう}刀の捌きで表し、技術が技能にまで高められていると言ってよく、主題にせまる迫力が感じられました。

準特選「河畔」は、鷺の形体や動きを中心にして、自然の中にわが身をおくという日本画の精神にふれようとする姿勢がよく、大画面ながら破綻がないと思います。

奨励賞「山岳会員の助力に感謝」は、画題の意味を表す梯子を大胆にも画面の中央に置き、墨の濃淡で登山道の奥行きを表現しています。

努力賞「はげいとう」は、ちぎり絵の中の高度な色彩表出を試みていて、これから手掛けられる種々の題材選定に楽しみが湧いてくるのではないのでしょうか。

その他入賞にはならなかったが、四曲一隻の形体を採った「夏の午後」の画面の中の形と材料の融合性や、「ふるさと晩秋の観音滝」の観察力など力作・労作にふれて感動の審査時間でした。

おわりに、総合美術展の体をなす「延岡市美展」の益々の発展を期待して審査評といたします。

【彫刻・工芸部門】

福岡市（九州造形短期大学教授） 辻嶋 寿憲

昨年に続き二度目の審査となりましたが、彫刻・工芸部門の会場には今年も、日向の国らしい明るく力強いエネルギーが充ち溢れていました。これは造り手の皆さん各々が、日々の生活の中で常に創作にチャレンジし、前向きに努力を続けられている成果だと思えます。今回、無鑑査作品を除く二十二点の入選作に対し、二倍以上の応募作品数となりました。半数強の作品が落選となりましたが、どの作品も作者の心のこもった作品ばかりで、選択にはたいへん悩まされました。その中で選択の基準としましたのは、創意にあふれるデザイン、技術の確かさ、そして緊張感です。

彫刻・工芸部門では、素材や技法が多岐にわたっていますので、ここからは、技法ごとに講評を記します。

<陶芸>

多数の応募があり、どの作品も作者の熱意のこもった作品でしたが、陶芸作品では作品の持つ緊張感を特に重視しました。ロクロ成形、手びねり成形にかかわらず、形態のバランスの良さに加え、釉薬のあがりや作り込みの確かさも考慮しました。「宇宙の光と影」はオーソドックスなロクロびきの壺ですが、緊張感のある形態に黒いイッチンの線文様の躍動感、白釉と辰砂釉の片身替りの大胆さと、陶芸作品のおもしろさが違和感なく結実しています。「銀河」はオブジェ的な空間作品としてのおもしろさに加え、丁寧なロクロの仕上げと釉芸の工夫がみてとれます。

<染色>

創意ある文様デザインと作り込みある力作ばかりで、選択にたいへん悩まされました。「窓」は、ローケツ染めの技法を活かしながら、絵画的な表現を目ざした作品です。ダークな色合いの中、明度のある淡紅色が破調を見せながら、緊張感を生んでおり若さに甘えない深みのある表現となっています。

<キルト>

キルト作品はどうしても手芸的な要素が強くなりがちですが、今回はどの作品も創意にあふれ、確かな

技術に裏づけされたすばらしい作品ばかりでした。「メロン」は、なにげない囁目風景を絵画表現をして再構成し、キルティングの技を十分に活かした作品です。「私の好きな花」は、バラの花の大胆な色面構成にヴィヴィッドな色使いが、花咲く植物の生命力の強さと若々しさを朗らかに表現して秀逸です。

<木工工芸>

今回おしくも落選した作品は手の込んだ作品ばかりでしたが、細部にいたる技術の正確さと、空間に対する形の緊張感をさらに追求していただきたいと思います。

今回は純粋に彫刻的な作品の応募が見られませんでした。多数の挑戦を期待して結びといたします。

【グラフィックデザイン部門】

東京都（イラストレーター、アニー賞受賞者）上杉 忠弘

今回の審査にあたって、『グラフィックデザイン』の定義と、その解釈の仕方に難しさを感じました。

たとえば、これがイラストレーションの審査ということであれば、結果はまったく違ったものになったのではないかと思います。

グラフィックデザインをコミュニケーションのためのツールというふうに考えたときに、絵として優れているものが必ずしも高い評価になるわけではないからです。そのため、泣く泣く外した作品があったこともお伝えしておきたいと思います。

特選の『認知患者の記憶』は色面構成とタイポグラフィのセンスの良さ、それらをデジタルに頼ることなく表現している技術等、優れた作品だと思います。額装が剥き出しの素材であり、印象としてマイナスになるであろうところを、作品の構成の一部としてプラスに転化しているあたりにもセンスの良さを感じました。想定される媒体が不明であることや、文字が背景に埋もれてしまい、勢いを削いでいる点などには一考の余地があるように思われますが、総合的に評価して特選といたしました。

準特選『延岡の伝統』は使用される媒体が明確に想定されており、プロとして通用するレベルの作品になっていると思います。応募作中、最も洗練された完成度の高い作品なのではないかと思いますが、そつなく纏まりすぎない印象もあり、そこが特選の作品との差になっていると思います。

奨励賞『背中ごしの約束』はイラストレーションとしての優れた技巧を評価いたしました。デジタルによる色彩の使用法やモチーフの配置など高いレベルにあります。コピー&ペーストで描かれた部分は創作に向う姿勢に安易さを感じます。また、文字と絵が相乗効果を生むような方向で構想されると、より良い作品になっていくのではないかと思います。

努力賞『小説「漂う」』は『延岡の伝統』と同様に実際の使用媒体を想定し、過不足なくイメージを落とし込んでいるところを評価いたしました。イラストレーションの技術とシンプルな画面構成に技術の高さを感じます。ただし、文字レイアウトに若干の収まりの悪さ、ミリ単位での詰めの甘さを感じます。

完成度は高いのですが、既視感のあるデザインと感じるところもあり、そのあたりが上位入賞作品との差となっていると思います。

無鑑査出品の『誕生』はグラフィックデザインの範疇に収まらない大胆さで、現代美術的な表現を試みている作品だと思います。媒体の想定は不明ですが、デザインとしての強さがあるとおもいます。

グラフィックデザインという括りで考えますと、メッセージを視覚表現を使っていかに効果的に伝えることができるかということが重要なのですが、そこは不明瞭なもの、イメージの強さが印象に残る作品がいくつかありました。

『しあわせの予感』はイラストレーションとしてのフォルムのユニークさに。『オムライス座』は針金を使った技法とコントラストに。『DANGEROUS BALL』は切り絵の手法によるデザイン性に。これらの個性的な部分が整理され、メッセージを伝える手段として集束させていくことができれば、より優れた作品になっていくのではないかと思います。

【書道部門】

福岡県（日展会友・読売書法会理事） 二宮 欣山

○＜特選＞延岡市長賞 漢字 岡崎一華さん

一字一字の文字の表情の豊かさ、運筆の抑揚と回腕自在で生まれる間、線の中に作者の感性が光っている爽快に仕上げた堂々たる作。

○＜準特選＞宮崎県教育長賞 仮名 伊藤春華さん

洗練された流麗なる筆到の作。墨のため方の巧みさと渴筆の冴えが行間の美しさを効果的にしている。古筆を基調とした明快な作。

○＜準特選＞延岡市教育委員長賞 漢字 甲斐春宵さん

求めている古典の技法を自己の書美として表現し絶妙な筆さばきによる条線の変化と調和を求めた韻致の高い作。更に古法の昇華を。

私は、作家としての自分を審査する自分がいつもの様に自問する中で第62回に続き二回目の審査をさせていただきます。

昨年より2点減、66点の応募作品を色々な角度から慎重に選別させていただきました。

前回と同様、皆さんの作品からは芸術への熱意と前向きな心のパワーを強く感じました。

その中で漢字仮名は古典を基調とした新しい傾向の作品がみられたこと、又若い人の熱気ある篆刻作品に触れたことにこの美術展の将来性を確信いたしました。

最後に、延岡市美術展を今日まで運営されてこられた関係者の皆様に深く敬意と感謝を申し上げます。

【写真部門】

東京都（写真家、日本鉄道写真作家協会会員） 山崎 友也

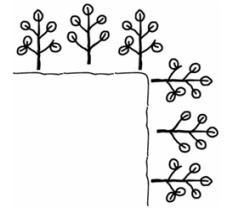
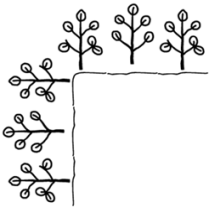
今年で63回を迎えるとあって皆さんに定着しているのか、質・量ともに申し分のない作品が集まっているのに驚きを感じました。全体的にはスナップが多いように思われましたが風景やポートレートもたくさんあり、ジャンルも幅広かったので楽しく審査させていただきました。気になった点としては単写真がほとんどで連写真での応募が少なく、組写真については一枚もありませんでした。写真にストーリー性をもたせた連写真や組写真ももっと数があれば良かったのにと少し残念に思いました。また一人一点の入賞ということで複数枚応募された方は自動的に一枚しか審査対象に出来ないのですが、さすが何枚も応募されるだけあってレベルの高い作品が数多くあり、この時点で取捨選択するのがとても惜しく感じてしまいました。

そんななかで特選に選ばせていただいた作品が肉眼では見ることの出来ないマクロレンズで捉えられた「雨あがりのファンタジー」です。そもそもマクロの世界なのでそれはレンズによる効果でありそれに頼りきってしまう写真になりがちなのですが、こちらの作品はそれプラス視点も目を見張るものがありました。通常は巣に根づくクモを写そうとするものですがあえて水滴にピントをあわせ、そこに映ったあじさいをフォーカスするというセンスに惹かれてしまいました。

準特選の「斜光」、「命を繋ぐ」は特選にするかどうか最後まで迷ったほどで、大変クオリティーの高い作品でした。

「夏が来た」はこどもたちの表情も良く楽しさがこちらまで伝わってきましたし、「街角」は絵を計算しつくされてスナップの妙技を感じさせられる作品でした。

ただ結果的になのですが全体的に入選された方々の年齢層が高くなってしまったので、次回からはもっともっと若い方にも頑張ってもらいたいなと思っています。



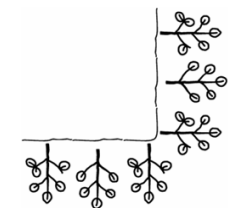
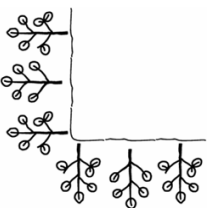
◆第63回『延岡市美術展覧会』作品出品状況

※（ ）内は昨年度

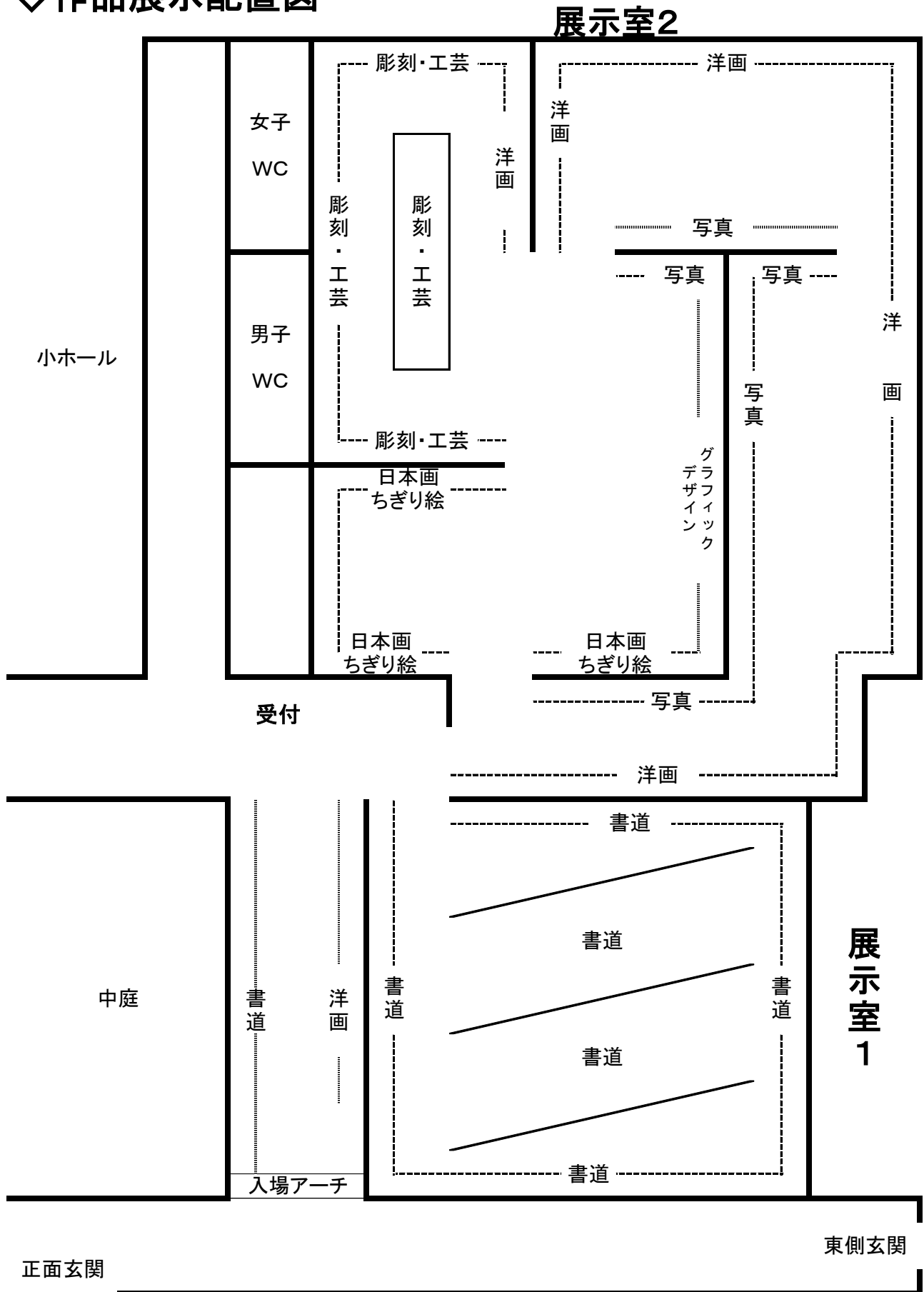
部 門	出品者数		出品作品数			C 招待作家 無鑑査	合計 (無鑑査等含む)	
	A	うち2点 出品者	一般	学生	B 小計		出品者数 A+C	作品数 B+C
洋 画	86 人 (78)	14 人 (15)	73 点 (83)	27 点 (10)	100 点 (93)	4 人 (3)	90 人 (81)	104 点 (96)
日本画・水墨画 ちぎり絵等	27 人 (28)	2 人 (5)	29 点 (33)	0 点 (0)	29 点 (33)	1 人 (1)	28 人 (29)	30 点 (34)
彫刻・工芸	36 人 (48)	10 人 (10)	42 点 (53)	4 点 (5)	46 点 (58)	3 人 (1)	39 人 (49)	49 点 (59)
グラフィックデザ イン	21 人 (32)	0 人 (1)	3 点 (3)	18 点 (30)	21 点 (33)	1 人 (1)	22 人 (33)	22 点 (34)
書 道	66 人 (66)	0 人 (2)	63 点 (64)	3 点 (4)	66 点 (68)	6 人 (6)	72 人 (72)	72 点 (74)
写 真	123 人 (116)	45 人 (47)	163 点 (163)	5 点 (1)	168 点 (164)	2 人 (3)	125 人 (119)	170 点 (167)
合 計	359 人 (368)	71 人 (80)	373 点 (399)	57 点 (50)	430 点 (449)	17 人 (15)	376 人 (383)	447 点 (464)

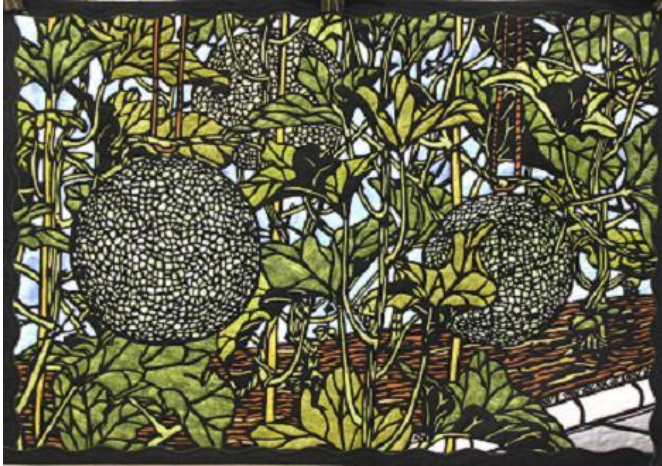
※<招待作家>・・・全国規模の公募展で、顕著な結果を残された方の作品

※<無鑑査>・・・「特選 延岡市長賞」を通算3回受賞された方の作品



◇作品展示配置図





彫刻工芸部門 特選『メロン』



日本画・水墨画・ちぎり絵等部門
特選『深山の聖域』



写真部門 特選
『雨上がりのファンタジー』

◇ 後 援 (順不同) ◇

宮崎県・宮崎県教育委員会・延岡市議会・延岡商工会議所・(社)延岡市医師会
延岡農業協同組合・(社)延岡市西臼杵郡薬剤師会・旭化成(株)延岡支社
ホテルメリージュ延岡・センコー(株)延岡支店・清本鐵工(株)
宮崎日日新聞社・夕刊デイリー新聞社・(社)延岡市歯科医師会